

県内企業景況調査結果

(2024年1~3月期実績、2024年4~6月期見通し)



— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、拡大している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅がやや縮小したものの、**8期連続のプラス**
来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し (4ページ)
- 景況天気は7期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I.(カッコ内は前回調査からの変動幅、単位:%ポイント)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期実績	18.2 (▲2.8)	 晴れ 18.1(▲2.9)	21.6 (▲5.8)	31.0 (▲0.7)	1.6 (▲2.4)	58.9 (+4.0)
来期見通し	16.6	 晴れ	22.3	33.5	▲1.6	56.1

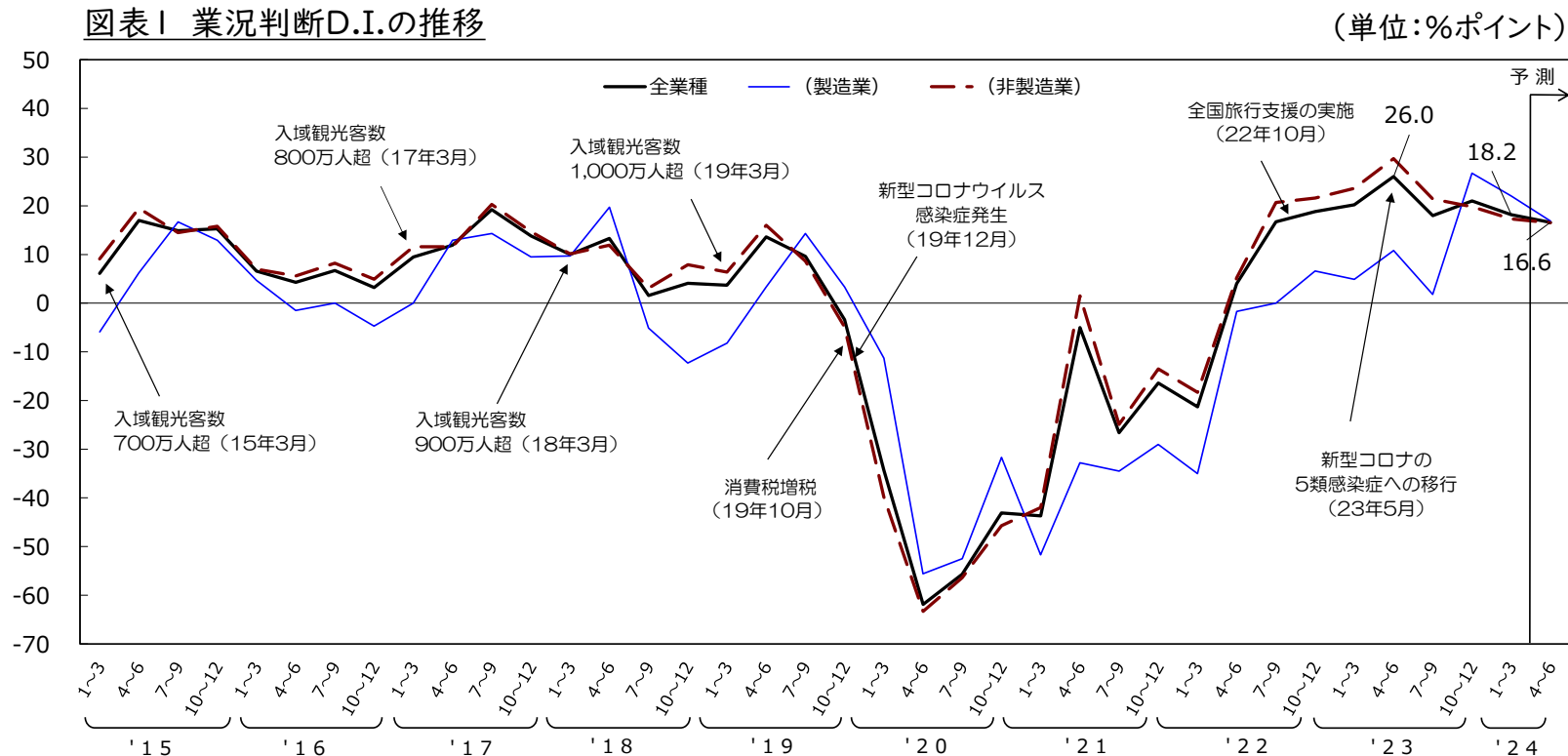
[調査内容についてのお問い合わせ先]

調査部 金融経済調査課(担当:松本) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 実績(1~3月期):「好転」超幅がやや縮小したものの、**8期連続のプラス** [前期21.0%ポイント(以下、単位省略)⇒当期18.2]
 - 堅調な観光需要や個人消費のほか建設需要も底堅いことから、県内景況は拡大している
- 見通し(4~6月期):来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し [来期16.6]
 - 人手不足や人件費増の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる

図表I 業況判断D.I.の推移



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 実績：7期連続の「晴れ」** [前期21.0 ⇒ 当期18.1]
 小売業、飲食店・宿泊業で「快晴」→「晴れ」、
 卸売業で引き続き「快晴」、製造業、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」、
 建設業で引き続き「薄曇り」、情報通信業で引き続き「曇り」
- 見通し：引き続き「晴れ」となる見通し** [来期18.1]
 飲食店・宿泊業で「晴れ」→「薄曇り」、卸売業で「快晴」→「晴れ」、
 情報通信業で「曇り」→「晴れ」、建設業で「薄曇り」→「晴れ」、
 製造業、小売業、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2022年		2023年				2024年		
	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	1~3月期 今回実績	4~6月期 今回見通し	
景況天気図	12.1	15.7	20.7	17.7	21.0	(18.8)	18.1	18.1	

快晴 — 30以上~100以下 晴 — 10以上~30未満 薄曇り — △5以上~10未満
 曇り — △30以上~△5未満 雨 — △100以上~△30未満

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
	全産業	371	319	86.0
	製造業	68	59	86.8
	建設業	68	62	91.2
	卸売業	49	42	85.7
	小売業	47	36	76.6
	運輸業	34	32	94.1
	情報通信業(※1)	23	19	82.6
	サービス業	46	41	89.1
	飲食店・宿泊業	33	25	75.8

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期:2024年1~3月期実績

来期:2024年4~6月期見通し

6. 調査実施期間

2024年2月下旬~2024年3月下旬

(発送:2024年2月22日、回収基準日:2024年3月8日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

※1 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

※2 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅がやや縮小したものの、8期連続のプラス

来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 自社の業況を総合的に判断する当期の業況判断D.I. (全産業)は18.2と、8期連続のプラスとなった。
- 製造業(22.0)では、「好転」超幅がやや縮小したものの、95年4-6月期の調査以来、過去2番目の水準を維持した。
- 幅広い業種で、外国人を含む観光客数の増加に伴う観光需要、堅調な個人消費により「好転」超となった。
- 公共工事、民間工事の需要底堅く、製造業、建設業、卸売業の業況判断に寄与した。
- 来期の業況判断D.I.は16.6と、「好転」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表3 業況判断D.I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

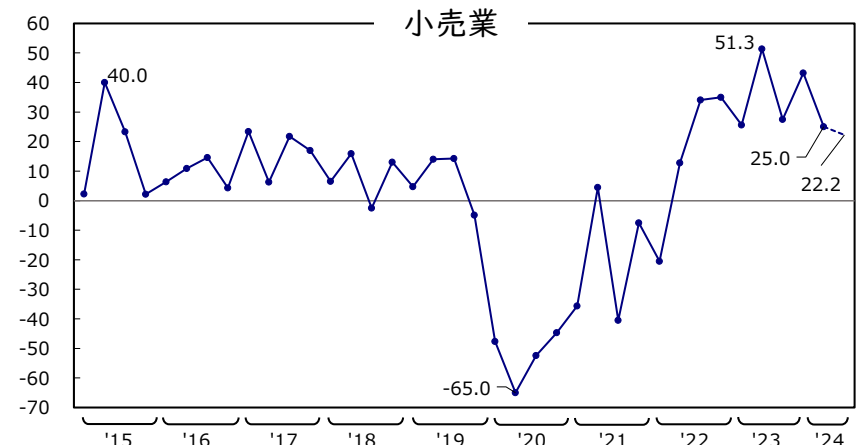
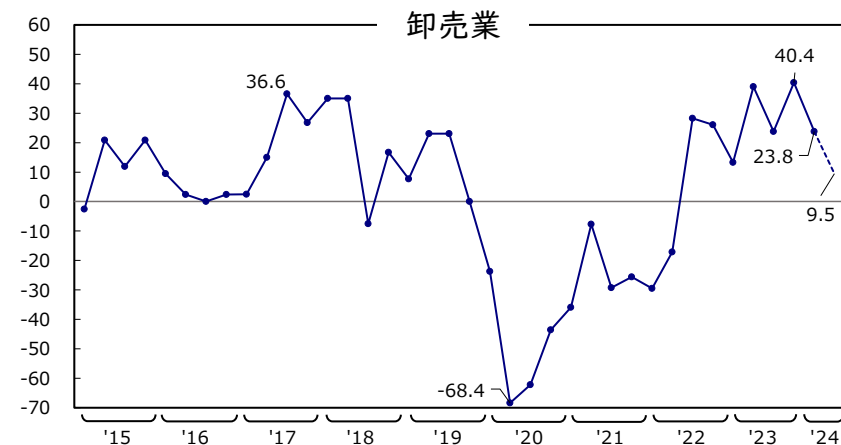
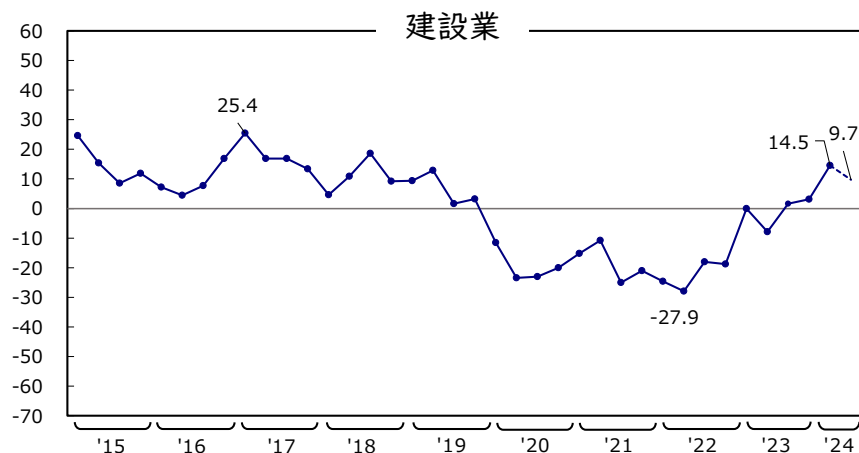
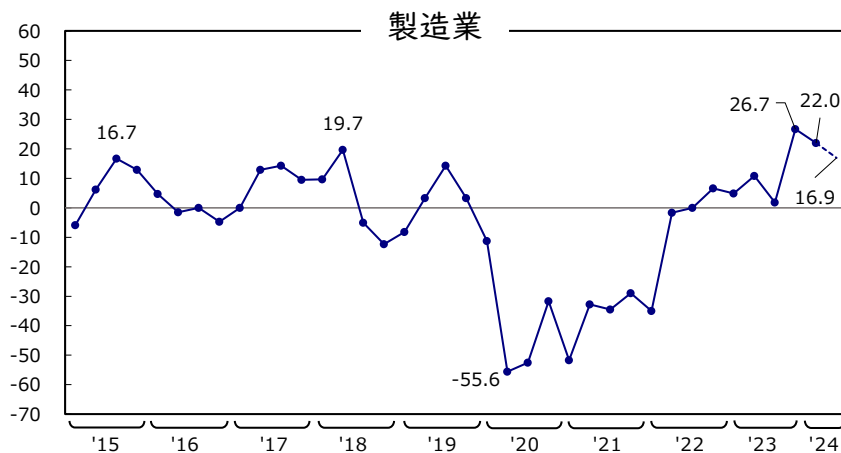
(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年		
		10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期		4~6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業	D.I. (①-②)	18.8	20.2	26.0	18.0	21.0	(17.7)	18.2	16.6	
	① 好転(%)	40.3	39.5	41.6	35.7	37.5	(31.1)	34.8	29.5	
	不変(%)	38.2	41.3	42.8	46.6	46.0	(55.5)	48.6	57.7	
	② 悪化(%)	21.5	19.3	15.6	17.7	16.5	(13.4)	16.6	12.9	
	製造業	6.6	4.9	10.8	1.8	26.7	(16.7)	22.0	16.9	
	建設業	△ 18.8	0.0	△ 7.9	1.6	3.1	(0.0)	14.5	9.7	
	卸売業	26.1	13.3	39.0	23.8	40.4	(31.9)	23.8	9.5	
	小売業	35.0	25.6	51.3	27.5	43.2	(32.4)	25.0	22.2	
	運輸業	35.5	35.5	43.8	28.1	19.4	(25.8)	9.4	21.9	
	情報通信業(※)	△ 10.5	4.8	△ 19.0	△ 5.3	△ 27.8	(△ 5.6)	△ 5.3	0.0	
	サービス業	33.3	26.8	37.2	24.4	17.5	(20.0)	19.5	26.8	
	飲食店・宿泊業	74.1	88.9	81.5	63.0	28.6	(21.4)	24.0	24.0	

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

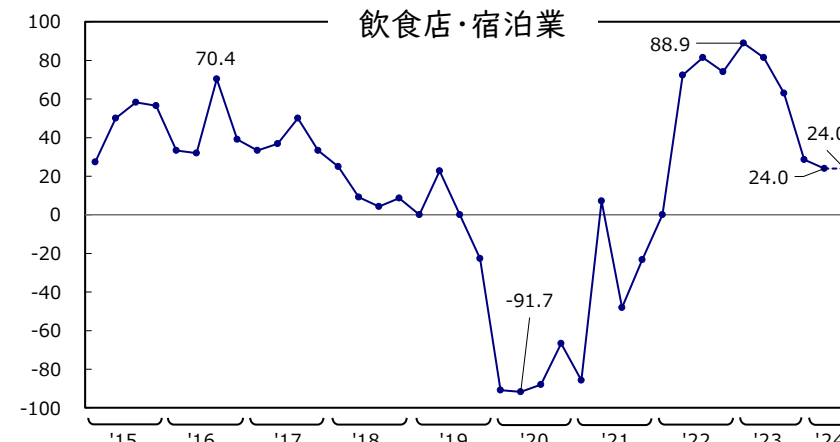
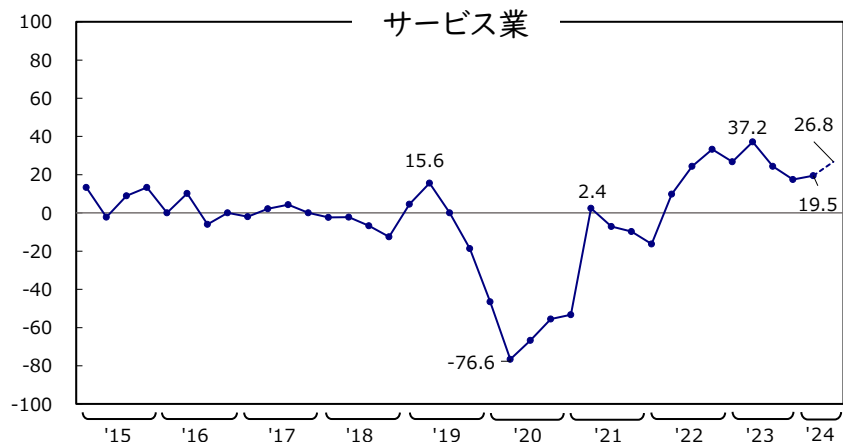
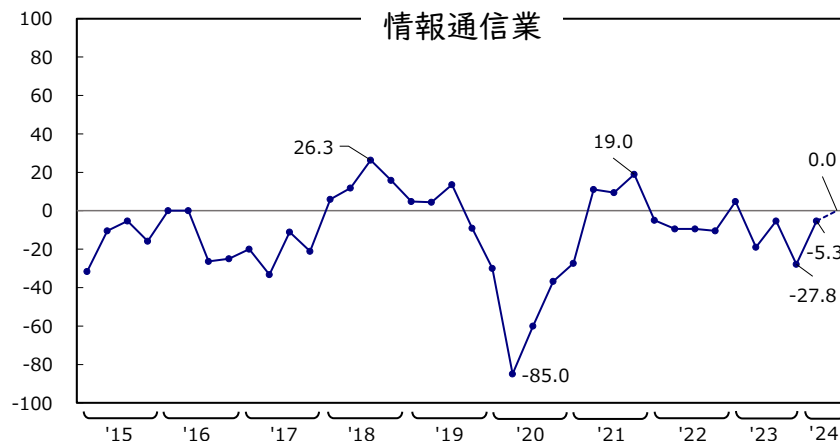
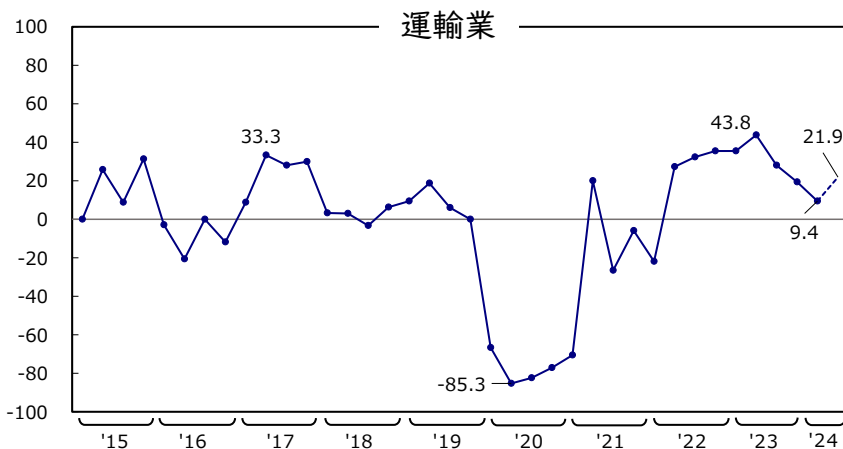
- 製造業では、食料品で観光需要が堅調だったほか、販売価格引き上げの効果により業況改善し、「好転」超を維持した。
- 建設業では、公共工事を中心に需要が旺盛なこと、民間大型工事の受注により、「好転」超幅が大幅に拡大した。

図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



- 情報通信業では、情報サービス業において新規顧客の獲得による売上増加により、全体として「悪化」超幅が大幅に縮小した。
- 飲食店・宿泊業は「好転」超幅が縮小したが、「不変」へのシフトによるもの。インバウンド客の回復による「好転」回答がみられた。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は7期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、売上D.I. (27.4→21.6) で「増加」超幅が縮小、資金繰りD.I. (4.0→1.6) で「楽」超幅がやや縮小したものの、採算水準D.I. (31.7→31.0) で「黒字」超幅がほぼ横這いとなったことから、景況天気(21.0→18.1)は7期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、資金繰りD.I. (△1.6) で「楽」超から「苦しい」超へ転じるものの、採算水準D.I. (33.5) で「黒字」超幅がやや拡大、売上D.I. (22.3) で「増加」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気(18.1)は「晴れ」の見通し。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値) (単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	1~3月期 今回実績	4~6月期 今回見通し
全産業		12.1	15.7	20.7	17.7	21.0	(18.8)	18.1	18.1
製造業		△1.1	8.7	8.2	8.3	25.0	(22.8)	26.0	22.0
建設業		△10.9	△2.1	2.6	2.7	6.3	(4.2)	9.1	10.2
卸売業		18.8	17.8	28.5	33.3	38.3	(34.8)	33.3	23.0
小売業		36.7	29.9	39.3	26.7	33.3	(31.5)	25.9	25.0
運輸業		16.1	24.7	31.3	25.0	24.7	(23.7)	18.8	18.8
情報通信業		△10.5	△7.9	△17.5	△22.8	△27.8	(△5.6)	△21.1	10.5
サービス業		23.9	22.8	31.8	19.5	19.2	(17.5)	17.1	21.1
飲食店・宿泊業		39.5	43.2	50.6	50.6	32.1	(11.9)	14.7	9.3

	快晴	—	30以上~100以下
	曇り	—	△30以上~△5未満
	晴	—	10以上~30未満
	雨	—	△100以上~△30未満
	薄曇り	—	△5以上~10未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2023年	2024年		
	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	1~3月期 今回実績	4~6月期 今回見通し
全産業				
売上D.I.	27.4	(23.5)	21.6	22.3
採算水準D.I.	31.7	(30.8)	31.0	33.5
資金繰りD.I.	4.0	(2.1)	1.6	△1.6

3. 売上

— 当期は「増加」超幅が縮小、来期は「増加」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で21.6と「増加」超幅が縮小したものの、22年4-6月期以降「増加」超で推移している。
- 製造業(27.1)では一部で販売数量の減少が見られたものの、販売価格の引き上げに伴い、引き続き高い水準を維持した(前期は38.3で過去2番目に高い水準)。
- 来期は、全産業で22.3と「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年	2023年				2024年			
	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期		4~6月期	
						前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業 D.I. (①—②)	24.5	25.0	29.3	21.4	27.4	(23.5)	21.6	22.3	
① 増加(%)	49.7	51.8	53.3	46.9	48.5	(40.2)	43.9	38.6	
不変(%)	25.2	21.4	22.8	27.6	30.5	(43.0)	33.9	45.1	
② 減少(%)	25.2	26.8	24.0	25.5	21.0	(16.8)	22.3	16.3	
製造業	14.8	23.0	12.3	7.1	38.3	(28.3)	27.1	22.0	
建設業	△ 21.9	△ 14.1	△ 12.7	△ 4.8	4.7	(△3.1)	3.2	3.2	
卸売業	28.3	17.8	39.0	33.3	48.9	(40.4)	35.7	26.2	
小売業	47.5	43.6	64.1	45.0	54.1	(48.6)	38.9	38.9	
運輸業	38.7	41.9	46.9	31.3	25.8	(35.5)	21.9	34.4	
情報通信業	0.0	△ 14.3	△ 28.6	△ 21.1	△ 27.8	(△11.1)	△ 36.8	15.8	
サービス業	43.6	41.5	55.8	26.8	20.0	(27.5)	29.3	22.0	
飲食店・宿泊業	85.2	88.9	85.2	66.7	39.3	(17.9)	40.0	32.0	

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がほぼ横這い、来期は「黒字」超幅がやや拡大する見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で31.0と「黒字」超幅がほぼ横這いとなり、6つの業種で「黒字」超となった。
- 情報通信業のうち情報サービス業で受注拡大したことから、「赤字」超幅が大幅に縮小した。
- 飲食店・宿泊業では、価格転嫁を実施するも仕入価格や人件費上昇に追い付いていないとの声が聞かれた。
- 来期は、全産業で33.5と「黒字」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	14.8	19.6	24.0	24.5	31.7	(30.8)	31.0	33.5
	① 黒字(%)	37.6	39.5	43.7	42.9	46.6	(42.1)	47.0	45.5
	トト(%)	39.7	40.7	36.5	38.8	38.4	(46.6)	37.0	42.6
	② 赤字(%)	22.7	19.9	19.8	18.3	14.9	(11.3)	16.0	11.9
	製造業	3.3	8.2	10.8	10.7	36.7	(31.7)	37.3	33.9
	建設業	△ 1.6	14.1	20.6	19.4	17.2	(26.6)	27.4	29.0
	卸売業	39.1	42.2	48.8	69.0	66.0	(61.7)	61.9	45.2
	小売業	47.5	33.3	41.0	25.0	37.8	(37.8)	30.6	36.1
	運輸業	6.5	19.4	31.3	21.9	35.5	(22.6)	31.3	28.1
	情報通信業	△ 15.8	0.0	△ 14.3	△ 36.8	△ 38.9	(0.0)	0.0	21.1
	サービス業	23.1	26.8	27.9	22.0	32.5	(25.0)	31.7	48.8
	飲食店・宿泊業	3.7	0.0	11.1	44.4	25.0	(10.7)	△ 8.0	8.0

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がやや縮小、来期は「楽」超から「苦しい」超へ転じる見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で1.6と「楽」超幅がやや縮小した。
- 製造業では、資金繰り「楽」超幅が大幅に拡大し、過去3番目に高い水準となった一方で、サービス業では資金繰り「楽」超から「苦しい」超へ転じた。飲食店・宿泊業でも、資金繰り「楽」超幅が大幅に縮小した。
- 来期は、全産業で▲1.6と「楽」超から「苦しい」超へ転じる見通しとなっている。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年	2023年				2024年		
	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	4~6月期 今回見通し	
						今回実績	今回見通し	
全産業 D.I. (①—②)	△ 3.0	2.4	8.7	7.1	4.0	(2.1)	1.6	△ 1.6
① 楽 (%)	9.4	13.0	17.4	15.2	13.1	(10.4)	11.9	8.8
不変 (%)	78.2	76.5	74.0	76.7	77.7	(81.4)	77.7	80.9
② 苦しい (%)	12.4	10.5	8.7	8.1	9.1	(8.2)	10.3	10.3
製造業	△ 21.3	△ 4.9	1.5	7.1	0.0	(8.3)	13.6	10.2
建設業	△ 9.4	△ 6.3	0.0	△ 6.5	△ 3.1	(△10.9)	△ 3.2	△ 1.6
卸売業	△ 10.9	△ 6.7	△ 2.4	△ 2.4	0.0	(2.1)	2.4	△ 2.4
小売業	15.0	12.8	12.8	10.0	8.1	(8.1)	8.3	0.0
運輸業	3.2	12.9	15.6	21.9	12.9	(12.9)	3.1	△ 6.3
情報通信業	△ 15.8	△ 9.5	△ 9.5	△ 10.5	△ 16.7	(△5.6)	△ 26.3	△ 5.3
サービス業	5.1	0.0	11.6	9.8	5.0	(0.0)	△ 9.8	△ 7.3
飲食店・宿泊業	29.6	40.7	55.6	40.7	32.1	(7.1)	12.0	△ 12.0

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期も「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で4.4と「容易」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期も、全産業で4.1と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期	
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業	D.I. (①—②)	0.0	1.8	2.7	6.2	3.0	(1.8)	4.4	4.1	
	① 容易(%)	4.5	6.0	4.8	8.7	5.5	(5.2)	6.9	6.6	
	不変(%)	90.9	89.8	93.1	88.8	92.1	(91.5)	90.6	90.9	
	② 困難(%)	4.5	4.2	2.1	2.5	2.4	(3.4)	2.5	2.5	
	製造業	△ 1.6	△ 1.6	△ 1.5	7.1	3.3	(3.3)	6.8	6.8	
	建設業	1.6	6.3	3.2	3.2	3.1	(1.6)	4.8	1.6	
	卸売業	6.5	0.0	2.4	7.1	2.1	(2.1)	7.1	7.1	
	小売業	0.0	5.1	2.6	5.0	0.0	(0.0)	11.1	8.3	
	運輸業	△ 3.2	0.0	0.0	9.4	6.5	(6.5)	△ 6.3	△ 3.1	
	情報通信業	5.3	0.0	4.8	△ 5.3	5.6	(△11.1)	0.0	5.3	
	サービス業	△ 2.6	2.4	9.3	9.8	2.5	(2.5)	0.0	0.0	
	飲食店・宿泊業	△ 7.4	0.0	3.7	11.1	3.6	(3.6)	8.0	8.0	

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は10.2と「増加」超幅が大幅に縮小した。来期は13.1と「増加」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	10.2	11.0	11.0	5.8	23.6	(27.1)	10.2	13.1
	① 増加(%)	44.2	44.1	41.4	38.4	44.4	(41.7)	36.5	27.7
	不変(%)	21.8	22.8	28.3	29.0	34.0	(43.1)	37.2	57.7
	② 減少(%)	34.0	33.1	30.3	32.6	20.8	(14.6)	26.3	14.6

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は49.6と「上昇」超幅が大幅に縮小した。来期は48.2と「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	67.3	76.6	64.8	71.7	63.2	(52.8)	49.6	48.2
	① 上昇(%)	70.7	79.3	69.0	73.9	67.4	(56.9)	55.5	51.1
	不変(%)	25.9	17.9	26.9	23.9	27.8	(38.2)	38.7	46.0
	② 下降(%)	3.4	2.8	4.1	2.2	4.2	(4.2)	5.8	2.9

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△0.7と、前期末と比べて「過剰」超幅が縮小した。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年
		12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末
全産業D.I. (①-②)		0.0	△ 2.1	△ 2.1	1.4	△ 6.3	△ 0.7
	① 不足(%)	10.2	6.9	6.9	10.1	4.9	9.5
	適正(%)	79.6	84.1	84.1	81.2	83.3	80.3
	② 過剰(%)	10.2	9.0	9.0	8.7	11.1	10.2

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で58.9と「不足」超幅がやや拡大し、過去最高を記録した。
- 来期は、全産業で56.1と「不足」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年	2023年				2024年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①-②)		47.3	51.8	48.8	50.3	54.9	(57.0)	58.9	56.1
	① 不足(%)	48.8	53.3	50.6	51.9	56.4	(58.2)	60.2	57.7
	適正(%)	49.7	45.2	47.6	46.6	42.1	(40.5)	38.6	40.8
	② 過剰(%)	1.5	1.5	1.8	1.6	1.5	(1.2)	1.3	1.6

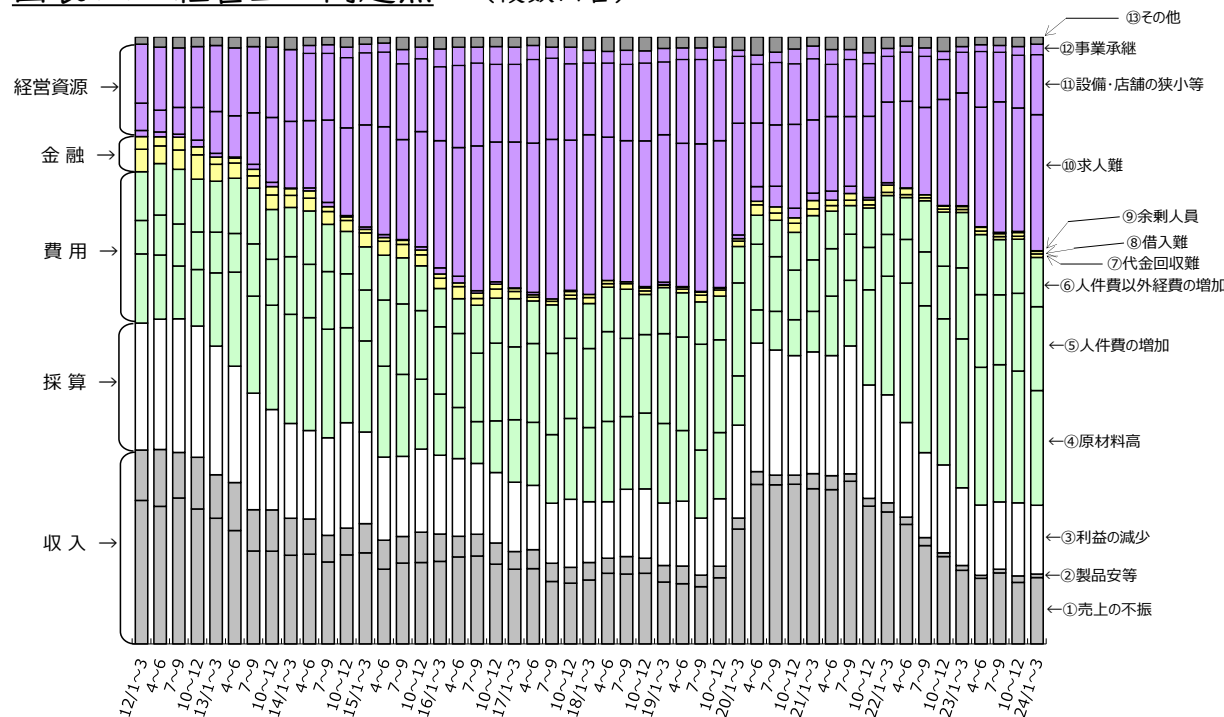
経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 経営上の問題点としては、17期ぶりに「求人難」の割合が最も高く、続いて「原材料高」、「人件費の増加」の順となった。
- 業種別にみると、建設業、卸売業、小売業、運輸業、サービス業において、「求人難」と回答した割合が最も高い。「原材料高」と回答した企業は、7期ぶりに20%を下回った。

図表14 経営上の問題点 (複数回答)

(単位:%)



区分		全産業
①	売上の不振	10.9
②	製品安等	0.6
③	利益の減少	11.3
④	原材料高	18.9
⑤	人件費の増加	13.8
⑥	人件費以外経費の増加	8.1
⑦	代金回収難	0.6
⑧	借入難	0.4
⑨	余剰人員	0.1
⑩	求人難	22.4
⑪	設備・店舗の狭小等	9.9
⑫	事業承継	1.7
⑬	その他	1.2